画像診断部

技師長　中村伸治

人事

画像診断部は中村技師長、久保副技師長、竹内副技師長、門脇主任、田村主任、村岡主任、田中主任、西森主任以下 26 名で、総勢 34 名体制です。3 月に岸田豊和が退職し、4 月に川崎友寛、田鍋友啓、松島圭吾の 3 名が入職、他院持ち込み画像の取り込み作業をしてくれていました山本春奈さんが 1 月に退職されました。

活動状況

2022 年も初めからコロナが猛威を振るいました。診療放射線技師も何人もがコロナにかかってしまい、業務を回すのに大変でした。感染しないように毎朝熱を測り記録し、部署ごとに CO2 モニタを設置して、換気を促しました。

他院からの持ち込み画像の取り込みは、画像診断部と臨床検査部とで、受付を分けていましたが、2 月から画像診断部で一本化することになりました。夜間にどこへ頼んだら良いか迷うような場合でも、画像診断部で対応するようになりました。

4 月からは村岡、田中、西森の 3 名に主任になっていただき、部を盛り立ててもらっています。9 月からは久保、竹内の両名に副技師長になってもらい、技師長のサポートと業務の円滑化に尽力してもらっています。また、整形外科からは一般撮影の脊椎の側面画像が左向きだったが、CT や MRI と同じ右向きに変えたいということで、設定を変更してもらいました。最初は違和感がありましたが、徐々に慣れてきました。

PSP のビューアーをバージョンアップして、それまで古い画像から読み込んでいたものを、新しい画像から読み込むようになって、最新の画像の表示が早くなりました。

C-19 室の X 線透視装置が古くなって透視が見にくい、と消化器内科の先生から指摘を受けていたが、6 月に島津社製 C-VISION からキャノン社製 Ultimax-i に入れ替えをして、医師からは好評を得ています。

CT では冠動脈を解析して、狭心症や心筋梗塞の診断に使う FFRCT（ハートフロー・ジャパン）を始めた。カテ室で行う FFR に比べると、非侵襲的で、患者さんにやさしいと言えるでしょう。日常点検では CT・MRI の点検項目に温度と湿度を加え、きめ細かなチェックを行っています。

カテ室には 3 月から清水速人（検査技師）さんが来てくれ、倉敷中央病院の良いところを教えてくれて、勉強になっています。B-5 はシングルプレーンでしたが、検査が多くなり、7月から検査室を広げ、2 か月かけてバイプレーンに変更しました、これでバイプレーンが 3 台になりました。

タスクシフトの一環で、診療放射線技師は告示に伴う研修が必須です。皆が研修を受け終わったら、業務を増やしていきたいと考えています。RI のメンバーは全員研修が終了したので、8 月から RI の投与、抜針を行ってもらっています。

外来センター一般撮影の混雑を解消するために、パノラマ撮影装置、デンタル撮影装置を以前結石破砕装置のあった外来センター5階へ移設しました。

IVR-CT 装置ではモニタが映らなくなる現象が起きて、1台を交換したが、さらに数台映らなくなり、メーカーと話して市販品に交換しました。

本館では照明が蛍光灯からLEDに変わったので明るくなりました。今年もおらんく家さんから差し入れをいただき、感謝しています。

検査件数は昨年と比べると減少傾向にあります。【表1】に示すように、総検査件数は 3.5%減の 103,169 件、夜間帯件数(17 時から 8 時 30 分まで)は 5.4%減少の 15,033 件でした。休日(土日祝日)は、2.7%減少の 8,661 件でした。【表2】に示す年間の主な検査件数では、ポータブル撮影を含む一般X線撮影件数は 65,817 件で、前年比 2.2%の減少。血管撮影件数は 3,994 件で、前年比 4.3%の減少。CT 検査は、21,741 件で、前年比 4.8%の減少。MRI 検査は 6,515 件で、前年比 7.1%の減少。RI 検査は、533 件で、前年比 13.8%の減少でした。【図1】には 2018 年～2022 年の主な検査の外来割合を示しています。一般 X 線撮影検査 63%、CT 検査 73.7%、MRI 検査 73.7%、RI 検査 61%で、昨年と比較すると一般 X 線撮影検査がやや減少、MRI はやや増加、CT と RI 検査は増加でした。【表3】CT 検査での CT アンギオは 1,653 件で、前年比 8.9%の減少で、多断面画像の作成は 2,206 件で、前年比 6.8%の減少でした。全体的に件数が減少しました。2 月のコロナの影響が大きいといえるでしょう。撮影の方法や造影剤の注入タイミング、患者さんに挿入されているカテーテルへの対応、スキャン計画の高度化、被ばく線量低減の計算等で時間を取られています。MRI では金属などの持ち込みがないように確認書を使ってチェックしています。各科の要望に応えられるよう日々努力を積み重ねています。学会での発表や web 講習会への参加で研鑽を行っています。

【表 1】　検査総件数と時間外件数

	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	前年比
総件数	108,035	107,718	102,600	106,935	103,169	96.5%
夜間帯件数	16,941	17,352	15,417	15,883	15,033	94.6%
休日件数	9,421	9,576	9,345	8,903	8,661	97.3%

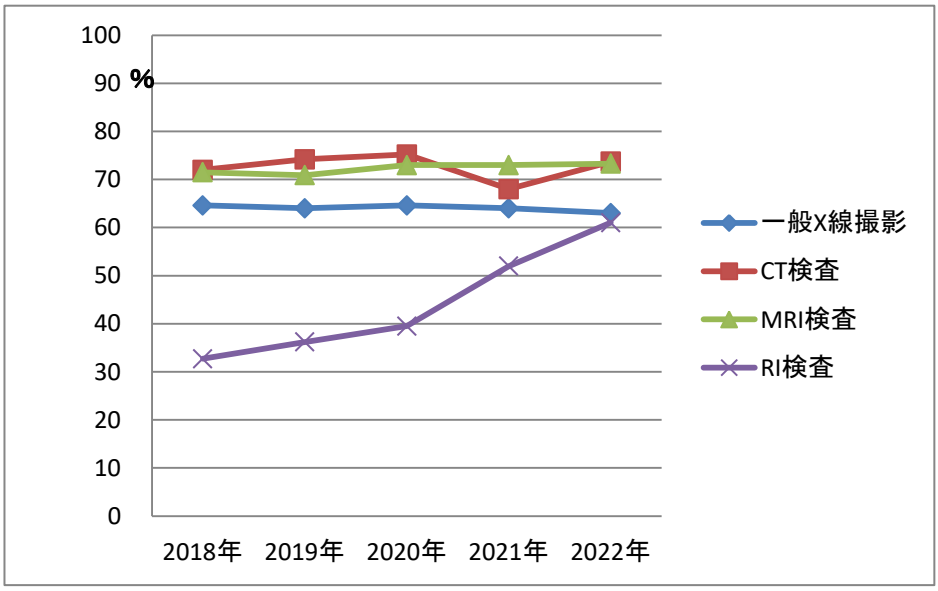
【表 2】　主な検査件数

	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	前年比
一般 X 線撮影検査	69,966	69,279	65,616	67,304	65,817	97.8%
血管造影検査	3,200	3,298	3,415	4,172	3,994	95.7%
CT 検査	22,697	23,491	21,691	22,828	21,741	95.2%
MRI 検査	7,070	6,635	6,630	7,014	6,515	92.9%
RI 検査	715	606	661	618	533	86.2%

【表３】CTA、３D-MPR 作成件数

	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	前年比
CTA	1,545	1,496	1,587	1,815	1,653	91.1%
3D-MPR	2,990	3,004	2,489	2,367	2,206	93.2%

【図１】2018－2022 年　主な検査外来検査割合



		一般Ｘ線撮影	CT 検査	MRI 検査	RI 検査
外来割合	2018 年	64.6	72	71.5	32.7
外来割合	2019 年	64	74.2	70.9	36.2
外来割合	2020 年	64.6	75.2	73	39.5
外来割合	2021 年	64	68	73	52
外来割合	2022 年	63	73.7	73.3	61

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
急性大動脈解離 StanfordA 型に対する CT 撮影方法の改善　Prep 編	谷脇貴博	第 38 回日本診療放射線技師学術大会	9 月 16 日(金)～18 日(日) 兵庫

研修会

研修会	ＦＴ（ファシリテータ）	学会名	開催
告示研修（令和３年厚生労働省告示第 273 号研修）	中村伸治 林憲司	告示研修（令和３年厚生労働省告示第 273 号研修）高知会場	5 月 22 日 高知
告示研修（令和３年厚生労働省告示第 273 号研修）	中村伸治 林憲司	告示研修（令和３年厚生労働省告示第 273 号研修）高知会場	10 月 2 日 高知

セミナー

講議	講師	学会名	開催
気管支解剖・胸部撮影	中村伸治	2022 年度日本診療放射線技師会フレッシャーズセミナー高知会場（web）	7 月 23 日 高知